

イネミズゾウムシの防除で 新たに5種類の農薬が使用可能に

イネミズゾウムシの防除農薬は、これまで、成虫防除用にMPP粉剤(バイジット粉剤)、水面施用剤としてPHC粒剤(サンサイド粒剤)、育苗箱施用剤としてカルタップ粒剤(パダン粒剤)及びPHC粒剤が登録されていたが、昨年12月17日付けで新たに5種類の農薬についてイネミズゾウムシへの適用拡大が認可され、今後次の農薬が

イネミズゾウムシ対象の防除に使用できるようになった。

なお、使用上の注意として、成虫防除用のスミバツサ粉剤20、カルホス粉剤、オフナックM粉剤の散布に当っては、①イネミズゾウムシは行動範囲が広いので、なるべく広域について一斉防除する。その際畦畔などの雑草にも散布する。②成虫だけを対象とした防除では、被害の防止効果が十分でないことがあるので、幼虫に有効な薬剤と組合せて使用する。等のことを注意する必要がある。

なお、従来登録されていたカルタップ粒剤の散布量の変更となり、育苗箱(30×30×3cm)当り100g 散布が80~100gと改められた。

農薬の種類	名称	10a当り 使用量	使用 時期	本剤のみ を適用する 使用回数	使用 方法	備考
MPP-BPMC	粒剤 バサジット粒剤	4kg	収穫 14日前まで	5回以内	散布	水面施用
MEP-BPMC	粉剤 スミバツサ粉剤20	3~4kg	14日前まで	5回以内	〃	成虫防除用
イソキサチオン	粉剤 カルホス粉剤	3~4kg	45日前まで	2回以内	〃	〃
エチルチオメトン・ ダイアジノン	粒剤 エチメトン粒剤6	4~5kg	50日前まで	2回以内	〃	水面施用
ピリダフェンチオン・ MTMC	粉剤 オフナックM粉剤	4kg	21日前まで	3回以内	〃	成虫防除用

イネミズゾウムシの類似食害痕

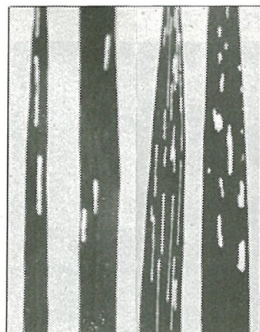
イネミズゾウムシを早期に発見するには、田植え前に畦畔等のイネ科雑草に対する越冬成虫の食害痕の有無を調査することが有効な手段の一つである。

この場合注意しておかなければならないのは、イネドロオイムシ、イネハモグリバエ、クロルリトゲトゲ、カヤノトゲトゲの食害痕は、イネミズゾウムシのそれに極めて類似していることである。

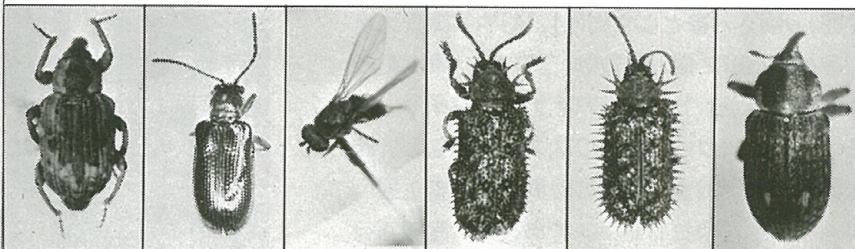
この中でも、特にススキを加害するクロルリト

は一見したところイネミズゾウムシのそれとほとんど判別がつかないほどよく似ている。

詳細にみると、イネミズゾウムシの食害痕は長さ数cmに及ぶものもあるが、概ね巾1mm、長さ1cm前後のいわゆる短冊形のものが多い。これに対して、トゲトゲ類の食害痕は、巾は通常イネミズゾウムシのそれより狭く、長さが1cmから長いものでは4cm以上に及ぶものがある。こうしたことから、最終的には成虫をさがし確認することが必要である。成虫の調査ではイネゾウムシがやや似ているが、食害痕は全く類似しない。



ゲトゲ、カヤを加害する
カヤノトゲトゲの食害痕



食害痕 左・イネミズゾウムシ 右・イネドロオイムシ
イネミズゾウムシ (3mm内外) イネドロオイムシ (4~5mm) イネハモグリバエ (2~3mm) クロルリトゲトゲ (4.5mm内外) カヤノトゲトゲ (4.5mm内外) イネゾウムシ (5mm内外)